



二セコ中央倉庫群

道経連会報 No.261

CONTENTS

巻頭言	1
視点	2
学長懇談会	7
室蘭地域会員懇談会	9
特集 第30回パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌	10
常任理事会レポート	14
経済施策説明	15
委員会等の動き	22
働き方改革を推進する企業	31
会員企業紹介	35
会員の異動	38
グループ活動報告	40
北海道の経済動向	46
人事・労務相談日	48
事務局人事	49
Face to Face	50
道経連カレンダー	51
会報誌読者様へのお願い	52
わがまち紹介 (シリーズ31)	53



北海道経済連合会 常任理事

中山 茂

(株)中山組 代表取締役社長

ワインと出会ってから

かれこれ35年以上前のこと。結婚してちょっと落ち着き、誘われて異業種交流の会に参加していました。国・道・電力・金融・道外企業支店関係者の企画畑の方が多く、まだ20代だった私にはとても新鮮で、大きな刺激を受けたものです。

1980年代前半に東京でその会の全国大会が開催され、分科会では「東京再発見コース」に参加しました。訪れたのは、大学4年間の在京時代には全く縁がなかった慶応大学付近の三田方面。夕食会場は、路地を入ったところにある趣のある洒落たフランスレストランでした。そのレストランの地下蔵には、数千本単位のワインが横たわっていました。ひんやりとした空気が漂い、とても厳粛な気持ちになったのを、昨日の事のように覚えています。私がワインにのめり込むようになったのは、その時の

感動がきっかけだったと思います。

数年後、その三田のレストランを二人の妹と再訪。料理もワインも雰囲気も、ひとつも前回と変わっていないことがとても嬉しく、地下蔵のワインを1本買って札幌に戻りました。「'83コート・デュ・ローヌ」。フランス語のエチケット(ラベル)を、今も大切にしています。

96年に札幌宮が丘のレストランで、ワインを少人数で飲む機会がありました。その時です。私の中で眠っていた何かがむくむくと起きた？ それとも、目覚めてしまったのか？ 以来、そのレストランオーナーは、私のワイン師匠となり、素晴らしいワインと共に人生を語る先輩となりました。

ワインと出会って、全く違った分野の人たちとの交流や繋がりが出来たことが、何といても財産です。ワインは、大勢の人と賑やかにガブ飲みも出来ますし、少人数でちょっとお洒落に気取って飲むことも可能です。アルコールの弱い方でも、つぎ足しを断っても失礼にはなりませんのでマイペースで飲めるお酒です。

北海道には、池田町や富良野市などのワイン先進地のほか、私が生まれ育った空知地方でも、浦臼町をはじめとして、多くの地域でワイン作りが始まっています。特にイチオシしたいのは、三笠にある「山崎ワイナリー」です。家族5人でスタートし「葡萄のなみだ」という大泉

洋主演の映画のモデルにもなったワイナリーです。このワイナリーでは、世界的にも評価されるワインを生み出しました。「ケルナー」という品種で作られた白ワインです。またブドウ品種の「ピノ・ノワール」を栽培しワインに使った事は特筆に値する、とワイン関係者から高く評価されています。

雑誌「東洋経済」に「世界で戦えるワインを！ 続々登場する国内の造り手」という特集が組まれたことがあります。そこでは、国内で三か所、山形、大阪、北海道のワイナリーが紹介され、「北海道の中央に位置する空知地方は、今、新たなワインの地として人気が高い」と山崎ワイナリーが掲載されていました。さらに「ピノ・ノワール種の生産に成功し、山崎さんに続こうと、空知地方に続々とワイナリーが誕生し、若い醸造家やワイン栽培農家も増えて来ている」とも紹介され、現在その通りになっています。

北海道が「ワインの本場」になるまでの道程はまだまだなのはもちろんでしょうが、空知に新しい産業としてワイン醸造が育つことは、地域再生につながり、さらには建設業再生にもつながることだと考えます。北海道発のワイン、特に私の地元の空知発のワインを応援していきたいと思っています。